

第3次南アルプス市総合計画
基本計画（素案）

令和7（2025）年度－令和16（2034）年度

第6回 総合計画審議会

基本計画の構成

基本理念

基本理念（南アルプス市民憲章）

緑かがやく自然を守り なかよく美しい心を結び合い
未来にひらく豊かなまちをつくることを
アルプスの山々に誓います

将来像

将来像

人がつどい次世代につなぐ活力あふれるまち 南アルプス
～自然と暮らしが調和した幸せ共感都市～

政策

政策 1：

「多様なみんなが
つながる、安全
・安心のまち」
の実現

政策 2：

「ともに支え合い、
生涯健康で幸せ
なまち」の実現

政策 3：

「こどもまんなか、
夢や希望が描け
るまち」の実現

1 地域コミュニティの充実
2 みんなでまちづくりの推進
4 防災体制の整備
3 多様性社会の構築
5 消防力の充実
6 防犯対策・交通安全の推進

7 地域福祉の充実
8 福祉総合相談体制の推進
9 高齢者福祉の充実
10 障がい者福祉の充実
11 健康づくりの推進
12 地域医療の充実

13 保育環境の充実
14 子育て支援の充実
15 こども家庭相談体制の充実
16 母子保健の充実
17 青少年健全育成の推進

幸せ共感

- 1 「自然・文化と共生したまちづくり推進」共感プロジェクト
- 2 「交通の要衝を活かした地域活性化」共感プロジェクト
- 3 「安心して住み暮らせるまちづくり」共感プロジェクト

「幸せ共感プロジェクト」とは

本計画における 10 年後の将来像や 2034 年のまちの姿を実現していくため、まちづくりを進めるうえで戦略性の高い取組を「幸せ共感プロジェクト」と位置づけ、計画期間中に特に力を入れて取り組みます。

政策 4：

「豊かな地域資源で、魅力・活力あふれるまち」の実現

18 19 20 21 22

農林業の振興
商工業の振興
企業誘致の推進
観光の振興
交流と定住促進

政策 5：

「自然とともに、快適で住みよいまち」の実現

23 24 25 26 27

自然との共生
生活環境の保全
道路・交通基盤の整備
都市空間の構築
上下水道の整備

政策 6：

「地域で学び、地域に活かすまち」の実現

28 29 30

生涯学習の推進
ふるさと資源の保全と活用
学校教育の充実

政策 7：

「次世代へつなぐ、持続可能な自治体経営」の実現

31 32 33

健全な財政の維持
時代に即した自治体経営
職員の資質の向上

プロジェクト

- 4 「未来を拓く人材の育成と活躍支援」共感プロジェクト
- 5 「未来へつなぐ持続可能なまちづくり」共感プロジェクト

幸せ共感プロジェクト

プロジェクト推進の考え方

以下の2つの考え方に基づき「幸せ共感プロジェクト」を着実に実行することにより、計画期間を終える10年後には市民が真に幸せを実感できるまちの実現をめざします。

① 施策横断によるプロジェクト推進

プロジェクトの推進に当たっては、主な施策・事業を所管する部局だけが縦割りで対応するのではなく、7政策・33施策を横断的にとらえ、貢献できる取組を職員一人ひとりが考えるとともに、市の総力を挙げてその実現を目指します。

② 市民、事業者との協働・連携によるプロジェクト推進

プロジェクトは、行政単独ではなく、市民や事業者との協働によらなければ実現できません。私たちが暮らす南アルプス市をより良いものにするため、「自らの幸せは自ら創造する」気概と積極的な姿勢のもと、市民が主役となり、行政や事業者との協働によりまちづくりを推進します。

5つのプロジェクトプロジェクト

1 「自然・文化と共生したまちづくり推進」共感プロジェクト

(主な取組)

- ユネスコエコパークを活かした国内・国際的認知度向上
- エコパ伊奈ヶ湖を核とする、学びと体験の交流エリア創出
- 魅力ある地域資源を活かした経済活動の推進と雇用創出
- 地域の魅力を伝える人材の活躍の場の創出

2 「交通の要衝を活かした地域活性化」共感プロジェクト

(主な取組)

- fumotto 南アルプスを中心とした地域活性化策の展開
- 南アルプス I C 北側周辺 (約 50ha) の都市的土地利用への転換
- 付加価値の高い土地利用に向けた官民連携によるエリアマネジメントの推進
- リニア中央新幹線開通効果を見据えたインフラ整備と国際化、広域化社会への対応
- 交通結節点の強みを活かした企業誘致、国内外をターゲットとした観光振興、住環境整備の推進

3 「安心して住み暮らせるまちづくり」共感プロジェクト

(主な取組)

- 国土強靱化計画に関する取組の推進
- 市内建築物の耐震化促進
- 災害・感染症に強い地域づくり、組織づくり、人づくりの推進
- 身近な地域における防災の取組の推進

4 「未来を拓く人材の育成と活躍支援」共感プロジェクト

(主な取組)

- 介護、福祉、保育・子育てなど各種専門分野における人材育成
- 地域資源、文化資源を伝え、学びや楽しみにつなげる人材育成
- 国際化社会に通用する世界視野を持てる子供教育、リーダーシップ教育
- 地域資源を活かした、新たな事業創発のためのプラットフォームの構築

5 「未来へつなぐ持続可能なまちづくり」共感プロジェクト

(主な取組)

- 市民、事業者、行政の協働、協創による自治体DXの推進と実現
- 自立型市民と進める行政改革と持続可能な自治体経営への転換
- 公共施設の統廃合、再配置による財政基盤の強化、健全化
- 市民や民間事業者のノウハウを活用した行政サービスの付加価値の向上
- まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づく人口減少対策


各施策の内容の見方

次ページ以降に、7つの政策に紐づく33の各施策について、1施策につき見開き2ページで以下の内容をまとめます。

施策の名称です。

施策1：地域コミュニティの充実

施策1：地域コミュニティの充実



施策に関連するSDGsのゴールをアイコンで示しています。

施策に関連する現状と課題がまとめられています。

現状と課題

- 自治会への加入率も年々減少傾向となっており
- 、住民相互の連帯感が薄くなり、結果として災害時の協力や自治会運営に支障をきたしている自治会も発生しています。
- 自治会活動への理解や参画が進まず、新たな分譲地などでは自治会への加入率が低く、また自治会内でも住民の高齢化などにより脱退する世帯もあり、自治会の未加入世帯は増加しています。
- 市内世帯の自治会加入率は70%を切っています。

理想とするまちの姿

- 市民が主体的に自治会活動に参画して地域の課題解決に取り組み、持続可能でリスクに強い地域となっています。

10年後に施策が理想とする将来像を、市民の目線から書いています。

まちづくり指標

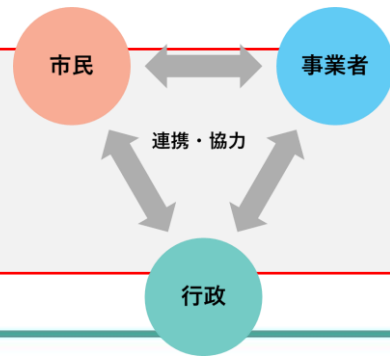
指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
私は、同じ区や組に住む人たちを信頼している	【Well-being】指標 近隣住民や地域との多様なつながりの満足度を示す。	3.56	R5	3.70	3.80
市内世帯について、自治会に加入している世帯の割合	自治会への加入状況を示す	69.5%		72.0%	74.5%
「自治会などの活動により、地域が活性化している」と感じる市民の割合	自治会活動の関心を示す	31.1%			40.0%
自治会役員における女性の割合	自治会活動への多様な人材の参画を示す	5.2%			

理想とする将来像の達成状況を把握するための指標と5年後及び10年後の目標値が書かれています。

- 1～5段階評価で実施した満足度アンケート調査結果の平均値を示しています。

※Well-being 指標の詳細については、巻末資料編を参照

基本構想「3.5. 市民、事業者及び行政の連携・協働による幸せの実現」に基づき、行政、市民及び事業者の役割について、色別にまとめています。



行政が取り組む施策として、「担当課」、「施策の方向性」、「重点事業」及び「関連分野別個別計画（方針）」について書かれています。

【行政】担当課：市民活動支援課

施策の方向性

- 自治会加入を促進し、自治会活動への参加を呼び掛けます。
- 市民が自治会活動に参画しやすいよう、自治会活動の負担軽減や運営の効率化を図ります。
- 自治会への理解を深めるため、活動の認知度を向上させ、地域における重要性を理解していただきつつ、意識醸成を図ります。
- 多様な人材に自治会活動へ参画いただくことで、地域力を向上していきます。
- 地域での活動やイベントを通して、連携を深め、地域のつながりをあらためて認識するとともに、相互扶助の意識を高めていきます。

重点事業

- 自治会活動の市民への周知と参画の促進
- 自治会活動への支援
- 地域集会施設の整備

関連分野別個別計画

- 自治会運営マニュアル

市民の役割として、市民一人ひとりが取り組むことができることについて書かれています。

【市民】

- 挨拶をしたり声かけを行うなど、近所同士のコミュニケーションを大切にします。
- 自治会の制度や活動を見直すことにより、役員の負担を軽減します。
- 誰もが安心して意見が言えるような組織づくりを目指します。

事業者の役割として、市民一人ひとりが取り組むことができることについて書かれています。

【事業者】

- 自治会が行う地域コミュニティ活動やイベントなどに積極的に支援、参画します。

※ 施策の内容は、市民会議及び職員ワーキンググループでの意見に基づいて作成されました。



施策1：地域コミュニティの充実



現状と課題

- 自治会連合会常任理事会の中に3つの専門委員会を設置し、市全体に共通する課題解決のための調査研究を行うことで、自主性・自立性を高めています。
- 地域コミュニティイベントは、組織での自立性を高め、地域独自の文化として運営し、相互扶助や協働の意識の醸成を図っています。
- 自治会への加入率は、年々減少傾向にあり住民相互の連帯感が薄くなり、結果として災害時の協力や自治会運営に支障をきたしている自治会が発生しています。
- 自治会活動への理解や参画が進まないことに加え、住民の高齢化等により担い手が不足しています。市内の自治会加入率が70%を切っている中、災害時などの緊急時における自治会の重要性はますます高まっています。自治会と市だけでなく、市民一人ひとりが主体的に参画することが必要です。

理想とするまちの姿

- 市民が主体的に自治会活動に参画し、普段から顔の見える関係性が構築されています。
- 市民や事業者、行政等が協働し、地域課題に取り組む活動を展開していきます。
- 一人ひとりが地域活動に関心を持ち、災害等の発生時には地域の人材や資源を最大限活用しリスクに強い地域となっています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
私は、同じ区や組に住む人たちを信頼している	【Well-being】指標 近隣住民や地域との多様なつながりの満足度を示す	3.56	R5	3.70	3.80
市内世帯について、自治会に加入している世帯の割合	自治会への加入状況を示す	69.6%	R5	72.0%	74.5%
「自治会などの活動により、地域が活性化している」と感じる市民の割合	自治会活動の関心を示す	31.1%	R5	35.0%	40.0%
自治会役員における女性の割合	自治会活動への多様な人材の参画を示す	5.2%	R6	7.5%	10.0%

【行政】担当課：市民活動支援課

施策の方向性

- 自治会加入を促進し、自治会活動への参加を呼び掛けます。
- 市民が自治会活動に参加しやすいよう、自治会活動の負担軽減や運営の効率化を図ります。
- 自治会への理解を深めるため、活動の認知度を向上させ、地域における重要性を理解していただきつつ、意識醸成を図ります。
- 多様な人材に自治会活動へ参画いただくことで、地域力を向上していきます。
- 地域での活動やイベントを通して、連携を深め、地域のつながりをあらためて認識するとともに、相互扶助の意識を高めていきます。

重点事業

- 自治会活動の市民への周知と参画の促進
- 自治会活動への支援

関連分野別個別計画

- 自治会運営マニュアル

【市民】

- 挨拶をしたり声かけを行うなど、近所同士のコミュニケーションを大切にします。
- 自治会の制度や活動を見直すことにより、役員の負担を軽減します。
- 誰もが安心して意見が言えるような組織づくりを目指します。

【事業者】

- 自治会が行う地域コミュニティ活動やイベントなどに積極的に支援、参画します。



施策 2 : みんなでまちづくりの推進



現状と課題

- 「市民活動センター」は、市民活動に関するトータルコーディネートを行っており、多くの市民が安心して利用できる環境が整っています。また、多様な地域課題に対して利用者 同士のネットワークを活用するための活動拠点の役割を担っています。
- 「協働のまちづくり」を主体的に進められる市民・行政・事業者が必要不可欠なため、継続的に研修等を取り入れていく必要があります。
- 行政などの各主体が、お互いを理解・尊重し、対等な立場で連携する共通認識が必要です。
- 市政の情報をわかりやすく発信することにより、市民のまちづくりへの興味や関心を高めるとともに、まちづくりの一翼を担う存在であることを伝える必要があります。

理想とするまちの姿

- 市民、事業者、行政が連携・協力し、互いに尊重し認め合いながら、協働のまちづくりを進めています。
- 市に関係する全ての人々が主体となって、より良い生活を送るため、多様な地域課題の解決に、継続的に取り組んでいます。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市では、まちづくりの取組への参加が進んでいる	【Well-being】指標 まちづくりへの参加に対する市民の満足度を示す	3.19	R5	3.30	3.40
市民活動相談件数	市民協働への関心度を示す	67人	R5	80人	100人
「市のホームページやSNS、広報誌等から必要な情報を得ることができている」と感じる市民の割合	行政からの情報が市民へ届いているかを示す	56.1%	R5	66.0%	80.0%
「市民・事業者・行政による協働で取り組むまちづくりに関心がある」と感じる市民の割合	協働のまちづくりへの関心度を示す	53.5%	R5	58.0%	65.0%

【行政】担当課：市民活動支援課・秘書課

施策の方向性

- 市民のまちづくりへの意識を醸成し、市民活動に気軽に参加できるきっかけづくりや場づくりを行います。
- デジタル技術を活用した情報収集と情報発信を通じて、情報交換の場づくりを行います。
- 市民協働のまちづくりを活性化し継続していくために、地域で活躍できる多様な人材の発掘、育成、及び活動の支援をします。

重点事業

- 市民活動の啓発、推進、人材育成及び継続的な支援
- 市民活動がまちづくりの一翼を担っているということの情報発信
- みんなで取り組む（市民協働）まちづくりの啓発、情報共有
- デジタル技術を活用した市民と行政のコミュニケーション
- 情報共有と市民参加の仕組みづくり

関連する分野別個別計画

- 協働のまちづくり基本方針
- みんなでまちづくり（協働）行動計画
- 南アルプス市シティプロモーション戦略

【市民】

- まちづくりの主役として、地域課題への意識や関心を高めます。
- 市民一人ひとりの興味・関心に基づいて、地域をより魅力的にするための取組を行います。
- 地域イベント等に積極的に参加します。

【事業者】

- 地域活動に関心を持ち積極的に協力、支援します。
- 専門性を活かし、地域課題解決のための取組を推進します。



施策 3 : 多様性社会の構築



現状と課題

- 職場や地域社会での仕事内容や、家庭内の役割を決めてしまうなど、様々な場面において、固定的な性別役割分担意識が残っています。
- 地域社会のあらゆる分野で女性活躍の推進が図られています。
- アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）にとらわれず、あらゆる多様な価値観に対する理解が必要になります。また、誰もがその個性や能力を生かし、活躍できるよう多様性を認め合うことが求められます。
- 今後さらに増加が見込まれる外国人が活躍し、地域で暮らしていくためには、日本語の習得できる環境や市民が多文化への理解を深める機会を増やしていく必要があります。

理想とするまちの姿

- 市民一人ひとりの人権が尊重され、誰もが地域社会の中で認められることにより、幸せな生活をしています。
- 年齢・性別・国籍・人種などに捉われず、多文化への理解を深め、すべての市民が共生しています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	【Well-being】指標 多文化、多様性社会の取組の満足度を示す	2.88	R5	3.10	3.30
南アルプス市には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	【Well-being】指標 男女共同参画の取組に対する満足度を示す	2.92	R5	3.20	3.40
職場や地域で男女差別を感じている市民の割合	男女共同参画の浸透状況を示す	25.4%	R5	20.0%	15.0%
日本語教室やサロンに参加した人数	在住外国人の多文化交流の状況を示す	37人	R5	50人	60人

【行政】担当課：市民活動支援課・政策推進課

施策の方向性

- 家庭、地域社会、職場、学校などの様々な場面において、ジェンダー平等の意識を持ち、互いに尊重し合い、共感しあえる社会（多様性の社会）を構築するための、啓発に努めます。
- 国際交流や地域活動等を通して、多様な文化や価値観への理解を深める機会を設けます。
- 市国際交流協会と協働し、外国人移住者への日本語教育を推進します。

重点事業

- 男女共同参画の推進
- 女性活躍の推進
- 多様性社会への理解促進
- 国際交流協会との協働及び運営支援

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市男女共同参画基本計画 南アルプスハーモニープラン

【市民】

- 国籍や性別などに関わりなく互いに人権を尊重し、市民一人ひとりが差別や偏見をなくします。
- コミュニケーションを通じて、多様な文化や価値観への理解や共生に対する意識を高めます。

【事業者】

- 国籍や性別などに関わりなく個性や能力を発揮できるよう、雇用機会を拡大します。



施策 4 : 防災体制の整備



現状と課題

- 地域防災の中心となる防災リーダーの配置率については向上していますが、自主防災会ごとに防災に対する意識の差が見られます。
- 多様化する勤務形態等により、消防団員の確保は困難な状況が続き、近年頻発している台風や大雨、集中豪雨に対応できる人材の確保が困難となっています。
- 地区防災計画は「自助」、「共助」を中心とした、地域で生活する市民や事業者等の自発的な防災計画ですが、その策定状況は順調ではありません。
- 大雨時を想定した水路・河川の適切な整備と治水対策を進めながら、南アルプス市ハザードマップを通じて、行政の「知らせる努力」と住民の「知る努力」が相乗的に働き「自助・共助・公助」がバランスよく連携する地域一体となった防災まちづくりが必要です。

理想とするまちの姿

- 災害に強いまちづくりのために、行政と自主防災会、防災リーダーや消防団などの関係団体や企業等が連携し、防災体制が整備されています。
- 道水路施設、河川施設の適切な維持管理及び大規模河川における治水対策により、市民の安全・安心につながっています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市では、防災対策がしっかりしている	【Well-being】指標 防災対策の取組に対する市民の満足度を示す	3.48	R5	3.60	3.70
ハザードマップなどで災害時の危険性を認識している市民の割合	市民の災害時の危険性の認識を示す	47.0%	R5	60.0%	70.0%
自主防災会への防災リーダー配置率	地域防災力強化の成果を示す	89.8%	R5	100.0%	100.0%
地区防災計画策定数	地域消防力強化の成果を示す	3 地区	R5	33 地区	58 地区

【行政】担当課：防災危機管理課・道路整備課

施策の方向性

- 災害の発生を完全に防ぐことは不可能であることから、「減災」の考え方を防災の基本理念として様々な防災施策に取り組んでいきます。
- 自主防災組織運営交付金や防災資機材等整備事業補助金等の交付による非常用備蓄品の充実を推進します。
- 防災講習会等の実施により、防災リーダーの養成や、地域、自主防災会の防災意識の向上、地区防災計画の策定支援等を行います。
- 消防団組織のあり方や活動内容を見直し、団員確保に努めます。
- 水路の溢水頻発箇所や危険箇所を特定し、必要な修繕及び清掃を行います。
- 排水機場は、大雨、台風時において重要な施設であることから、日頃から機器の点検等適切な維持管理に努めます。

重点事業

- 自主防災組織運営交付金や防災資機材等整備事業交付金の交付
- 地区防災計画の策定支援や防災リーダー養成
- 防災備蓄倉庫等の防災施設の整備
- 地域における自助・共助の意識啓発
- 道水路、河川等の適切な維持管理
- 水防体制の整備、治水対策の推進

関連する分野別個別計画

- | | |
|----------------|-----------------|
| • 南アルプス市地域防災計画 | • 南アルプス市災害時受援計画 |
| • 南アルプス市事業継続計画 | • 南アルプス市防災備蓄計画 |
| • 南アルプス市国民保護計画 | • 南アルプス市国土強靱化計画 |

【市民】

- 災害発生時に地域で助け合うことが出来るよう、共助の意識を深めます。
- 日頃から危機管理意識をもち、備蓄等の備えをするとともに、自主防災組織や防災訓練などに積極的に参加します。
- 地域消防の要となる消防団の維持存続のため、積極的に協力（加入）します。
- 水路の溢水頻発箇所などに関する情報提供を行います。

【事業者】

- 災害発生時における地域への物資等の提供などの支援活動を実施します。
- 災害発生時も事業活動が継続できるよう、BCP（事業継続計画）を策定します。
- 消防団が働く事業所では、災害発生時の消防団員の出勤に配慮します。



施策 5 : 消防力の充実



現状と課題

- 大規模災害や激甚化など複雑多様化する災害に対し、迅速かつ的確に対応を継続するために、職員の教育訓練、最新の知識や高度な技術の習得、資格保有者を養成し、組織の機能強化を図ることが必要です。
- 住宅用火災警報器の未設置住宅が市内に 20% 程度あることから、市民への普及啓発が求められます。
- 応急手当と初期消火活動及び避難訓練の重要性を理解し、定期的に救急講習会や消防訓練へ参加することが必要です。

理想とするまちの姿

- 大規模災害や激甚化など複雑多様化する災害に対応するため、的確な部隊運用、効果的な戦術、実践的な訓練によって、職員の現場対応能力が向上しています。
- 消防体制が充実強化し、防火意識が向上することで、市民が安心感をもって生活できるようになっています。
- 救急講習会と消防訓練に参加する市民が増えており、また定期的に参加する市民も増えています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市では、消防・救急体制が整っている	【Well-being】指標 消防・救急活動に対する市民の満足度を示す	3.48	R5	3.60	3.70
救急講習会への参加者数	傷病者を発見した際の行動を示す	393 人	R5	503 人	603 人
消防訓練への参加者数	火災などの災害を発見した際の行動を示す	2870 人	R5	3010 人	3210 人
住宅用火災警報器の設置割合	市民の防火意識を示す	73.0%	R5	85.0%	90.0%

【行政】担当課：消防本部管理課・消防課・予防課・指令課・消防署

施策の方向性

- 消防活動体制の充実強化を図るために、最新の資機材を整備した訓練の実施と、隣接消防本部との連携強化を図ります。
- 救急車が到着するまでの間、現場に居合わせた市民による応急手当が行えるよう、救急講習などを積極的に行います。
- 住民に住宅防火対策の重要性を積極的に広報し防火意識を高めるとともに、住宅火災を減少し、被害の軽減を図ります。
- 火災などが発生した際、発見者による早期通報と初期消火活動が行えるよう、消防訓練を積極的に行います。

重点事業

- 消防・救急体制の充実強化
- 住宅用火災警報器の設置及び適正な維持管理の推進
- 違反是正指導の継続
- 職場環境改善・人材育成の推進
- 消防庁舎・緊急車両等の整備
- 消防装備の充実

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市消防本部消防計画
- 南アルプス市消防力整備計画
- 南アルプス市消防本部緊急消防援助隊受援計画
- 応急手当の普及啓発に関する計画
- 緊急消防援助隊山梨県応援実施計画

【市民】

- 消防訓練・救急講習に積極的に参加します。
- 住宅用火災警報器を適切に設置し維持管理します。

【事業者】

- 防火意識の向上を図るとともに、消防訓練・救急講習に積極的に参加します。
- 消防法違反がないよう防火体制の維持管理に努めます。



施策 6 : 防犯対策・交通安全の推進



現状と課題

- 子どもと高齢者の交通事故件数は高い水準で推移しています。引き続き、専門交通指導員による交通安全教室や高齢者講習会等を実施して、交通安全意識を啓発し、交通マナーの更なる向上を図っていく必要があります。
- 自治会や学校、関係機関と連携して危険個所を把握し、カーブミラーや注意看板を設置しています。破損等には迅速に修繕等を実施する必要があります。
- 地域の防犯意識の向上や市の防犯対策等により犯罪件数は減少傾向にありますが、依然不審者等の情報は後を絶ちません。犯罪抑止や早期解決に効果的な、防犯カメラを設置する必要があります。
- 自治会からの防犯灯に対する要望は毎年一定数あるため、公平かつ適正に対応する必要があります。同時に、環境に配慮してLED化を推進していく必要があります。
- 若者・高齢者を問わず消費生活に関するトラブルを未然に防ぐ啓発活動や、関係機関と連携し、安心・安全な消費生活を送ることができるよう相談体制の整備に努める必要があります。

理想とするまちの姿

- 防犯設備の設置が進み、防犯活動や交通安全運動等が活発に行われ、犯罪認知件数や交通死亡事故が減少することにより、市民が安心安全な生活を送ることができるようになっています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市は、防犯対策（交番・街灯・住民の見守り等）が整い、治安がよい	【Well-being】指標 防犯対策の取組に対する市民の満足度を示す	3.35	R5	3.50	3.60
市内の犯罪認知件数	犯罪の発生状況を示す	213 件	R5	160 件	100 件
市内の交通事故件数	交通事故の発生状況を示す	210 件	R5	130 件	100 件
子どもと高齢者の交通事故件数	子どもと高齢者の交通事故の発生状況を示す	96 件	R5	50 件	30 件

【行政】担当課：防災危機管理課・市民活動支援課

施策の方向性

- 警察や防犯ボランティア等の関係団体と連携し、街頭活動や防災無線による犯罪や交通事故防止の周知、防犯カメラの設置などの防犯対策にも努めます。
- 交通安全教室等の開催により、交通事故防止の住民意識の向上に努めます。
- 各自治会に防犯灯の LED 化に関する補助制度の周知を行うことにより、計画的な LED 化を推進します。
- 消費者被害防止のため啓発活動に努めます。

重点事業

- 警察や関係団体、地域が連携した防犯対策の推進
- 交通安全計画に基づく、交通事故防止及び交通安全施設の整備
- 市内防犯灯設備の設置推進

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市交通安全計画
- 南アルプス市交通安全実施計画

【市民】

- 市民一人ひとりが、防犯や交通安全に関心を持ちます。
- 交通安全についての知識を身につけ、交通マナーを守った運転を心掛けます。
- 各自治会における防犯灯の計画的な LED 化を推進します。

【事業者】

- 行政や警察署、防犯団体等との連携を図り、防犯や交通安全などの啓発活動に協力します。
- 自治会による防犯灯の LED 化に協力します。



施策 7 : 地域福祉の充実



現状と課題

- 少子高齢化や核家族・移住者の増加、市民の生活様式や価値観の変化等により、つながりの希薄化が進み、地域のことに関わりを持たない人が増えています。
- 市民の孤独・孤立の進行、自治会等の地域活動の高齢化と担い手不足により、地域での困りごとの解決が難しく、行政や福祉制度への需要が高まっています。
- 一方で、地域で支えあう暮らしを実感してきた世代や、新たな課題の解決に意欲的に取り組む若い世代などの方々が、協議体や市民活動、子ども若者ささえ愛基金事業など様々な形で地域福祉活動を実践しています。

理想とするまちの姿

- 市民が地域でお互い様の気持ちを持って、支えあい・助けあいが実践されています。
- 地域で支え手と受け手に分かれることなく、誰もが居場所や役割をもちながらお互いに支えあう地域共生社会を実現しています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市には、困ったときに相談できる人が身近にいる	【Well-being】指標 地域共生社会の取組に対する市民の満足度を示す	3.27	R5	3.40	3.50
「地域で見守り、声かけなどの助け合いが行なわれている」と感じる市民の割合	地域の助けあいに対する市民の関心の度合いを示す	37.5%	R5	45.0%	50.0%
民生委員児童委員の充足率	住民参加による地域福祉の充実の度合いを示す	100.0%	R6	100.0%	100.0%

【行政】担当課：福祉総合相談課

施策の方向性

- 民生委員児童委員や地域支えあい協議体、関係団体との連携により、日頃の見守りや災害時を含め困った時に協力できる支えあいの地域づくりを推進します。
- 福祉以外の分野を含む様々な地域資源とのネットワークを構築し、市民の多様な生活課題に応じた支援の場づくりや、地域課題の解決につながる地域力を高めます。

重点事業

- 世代や属性を越えた参加支援と地域づくりの充実（重層的支援体制整備など）
- 社会福祉協議会と民生委員・児童委員の活動の充実
- 避難行動要支援者に対する支援体制（平常時からの見守り・支えあい）の構築

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市地域福祉計画
- 南アルプス市自殺対策計画
- 南アルプス市重層的支援体制整備事業実施計画

【市民】

- 自治会や地域の行事等を通じて住民同士の交流を図ることにより、困った時に助け合える関係づくりをします。

【事業者】

- 社会福祉協議会等が中心となり、市民への福祉教育や、助け合える関係づくりへの支援に取り組みます。
- 企業・農家・各種事業者等の協力により、働く場体験の場、様々な社会参加の機会を創出します。



施策 8 : 福祉総合相談体制の推進



現状と課題

- 病気や障がい、仕事や収入、介護や育児など複数の課題を抱える個人や世帯が多く、支援ニーズが複雑化・複合化しています。
- 相談行動を起こさず重篤化する例や、家族や近隣は気づいていても支援が届いていない事例があります。
- 自殺による死者数は、交通事故死亡数を上回る状況が続いています。

理想とするまちの姿

- 市民が困りごとを抱えた時、気軽に話せる身近な相談先があり、その先の適切な支援につながることで自分らしい暮らしを続けています。
- 自ら相談できない人であっても、周囲の気づきから支援につながることで、孤独・孤立を防ぎ、心身ともに健康で幸せな暮らしが実現しています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市には、生活に困ったときに相談する行政の窓口がある	【Well-being】指標 相談支援に対する市民の満足度を示す	3.52	R5	3.70	3.80
生活保護率	市民のうち生活保護受給者の割合を示す	0.58%	R6	0.60%	0.60%

【行政】担当課：福祉総合相談課

施策の方向性

- 福祉総合相談体制の充実・強化により、世代・属性を問わない「断らない相談」の実施体制を構築します。
- 困りごとを早期に発見し、相談や支援につなげるため、庁内や関係機関との連携を図り、市民の生命・生活を守るセーフティネットの強化を図ります。

重点事業

- 包括的な支援体制の推進（重層的支援体制整備、コミュニティソーシャルワーカー配置、庁内セーフティネット構築など）
- 生活困窮者自立支援事業（自立相談支援、家計改善支援、就労準備支援など）の充実
- 生活保護の適切な実施

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市地域福祉計画
- 南アルプス市自殺対策計画
- 南アルプス市成年後見制度利用促進計画
- 南アルプス市重層的支援体制整備事業実施計画

【市民】

- 生きていくことに困ってもあきらめず、まずは相談します。
- 近隣住民に関心を持ち、困っている人がいれば相談機関等につなぐなどの支援を行います。

【事業者】

- 市民生活に身近な各種サービスを通じた見守りや、困っている人がいれば相談機関等につなぐなどの支援を行います。



施策 9 : 高齢者福祉の充実



現状と課題

- 65 歳以上の高齢者、ひとり暮らし高齢者世帯や認知症高齢者は増加しています。
- 認知症や転倒・骨折、生活習慣病の重症化等でフレイル（健康と要介護の間の虚弱な状態）になるリスクが高くなり、支援を必要とする高齢者が増加しています。
- 高齢者が住み慣れた地域で生活を続けられるよう、地域で支えあう体制の強化が求められています。

理想とするまちの姿

- 年齢を重ねても、その人らしく活躍しながら、支えあいのなかで安心して暮らしています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市では、高齢者の介護・福祉施設のサービスが受けやすい	【Well-being】指標 高齢者福祉の取組に対する市民の満足度を示す	3.37	R5	3.50	3.60
老後も安心して暮らせると思う市民の割合	高齢者福祉に対する市民の安心感を示す	41.7%	R5	44.7%	47.2%
認知症サポーター養成講座を受講した人数（累計）	認知症についての理解の広がりを示す	12,607 人	R5	17,107 人	20,857 人

【行政】担当課：介護福祉課・国保年金課

施策の方向性

- 健康・長寿のまちづくりを実現するため、高齢者が地域の支えあいの中で、その人らしく安心して暮らし続けられる仕組みづくりを推進します。
- 高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自立した日常生活を送ることができるよう、地域包括ケアシステム（生活支援、介護予防、医療・介護連携、地域支えあい協議体）の更なる構築を推進します。
- 認知症の正しい理解の普及・啓発に努め、認知症高齢者にやさしい地域づくりを推進します。
- 疾病の重症化予防と生活機能の維持の両面で高齢者を支援していきます。

重点事業

- 地域包括ケアシステムの構築
- 認知症にやさしい地域づくりの推進
- 高齢者の生きがいづくりと社会参加の推進

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市高齢者いきいきプラン（高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画）
- 山梨県後期高齢者医療広域連合の広域計画

【市民】

- 高齢者自身が地域の活動に参加するなど、社会参加を通じて介護予防に取り組みます。
- 支えあいの意識のもと、さまざまな地域課題に対し、できる範囲で取り組みます。
- 認知症に対して正しい知識を持ち、認知症高齢者やその家族のためにできることを実践します。

【事業者】

- 介護サービスを必要とする方に、必要なサービスを提供します。
- 疾病の重症化予防や健康教室での指導を通して、高齢者の健康維持を推進します。
- 高齢者が社会参加出来るよう、雇用機会を提供します。
- 高齢者を含む多様な世代が楽しめる場を提供します。



施策 10 : 障がい者福祉の充実



現状と課題

- 市民や関係者向けの研修会等を実施し、障がいへの理解促進を図っています。
- 途切れのない支援連携会議により、福祉・保健・教育関係者等への研修を行うなど発達に課題のある児童への理解促進、相談支援体制の強化を図っています。
- 生活の中で他人からの視線や偏見を感じたり、地域や職場における環境面の配慮を必要とする人がおり、障がい者への差別の解消と社会的障壁の除去が必要です。
- 社会環境の変化、生活やニーズの多様化等により、複雑化・複合化した相談が増加しており、これらに的確に対応できる相談支援体制の強化が必要です。

理想とするまちの姿

- 障がいのある人もない人も共に支えあい、住み慣れた地域社会の一員として社会活動に参画し、生涯にわたり自分らしく、安心して暮らすことができる共生社会が実現しています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市では、障がい者の支援サービスが受けやすい	【Well-being】指標 障がい者福祉の取組に対する市民の満足度を示す	3.28	R5	3.40	3.50
障がいのある方への声かけ、見守りなどを行っている市民の割合	障がいのある方への市民の理解促進と心理的障壁の除去を示す	28.5%	R5	29.1%	29.6%
福祉しごとサポートに照会し、就労につながった件数	障がい者就労の支援体制強化と事業者による雇用環境の整備状況を示す	22 件	R5	28 件	33 件

【行政】担当課：障がい福祉課

施策の方向性

- 地域社会における障がい者に対する理解の促進と差別の解消のための啓発・広報活動を行い、社会的障壁の除去を推進します。
- 障がい者本人だけでなく、その世帯等も含めた課題に途切れなく取り組むため、基幹相談支援センターを中心に多機関が協働する相談支援体制の強化を推進します。

重点事業

- 地域社会における障がい者に対する理解の促進、権利擁護の推進
- 障がい者個々のニーズに応じた相談支援体制の強化

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市障害者計画
- 南アルプス市障害福祉計画・障害児福祉計画

【市民】

- 障がいに対する無理解や偏見といった、こころの障壁を取り除きます。
- 地域の行事やお祭りなどに障がい者が参加しやすい環境づくりを行います。

【事業者】

- 一人ひとりの個性を活かして、誰もがやりがいを持って働ける雇用環境を整備します。
- 障がい者に対する理解を深め、障がい者が利用しやすいサービスを提供します。
- 障がい者との対話により、社会的障壁を除去するために必要な配慮を提供します。



施策 1 1 : 健康づくりの推進



現状と課題

- ・ 巡回検診や人間ドッグを習慣化している市民が多いため、健康診査（以下、健診という。）の受診率は高い数値となっています。
- ・ 更なる受診率の向上に向け、市内医療機関や薬剤師会との連携、受診率の低い働き盛り世代に向けた受診勧奨などを実施しています。
- ・ 一方、健診の結果で再検査が必要な場合の医療機関への受診率が低いことが課題となっています。病気を早期に発見する機会を逃してしまうことで、現状より重症化してから発見されることとなり、今後の健康を維持し続けることが困難となります。再検査を受け病気の早期発見や早期治療に結びつけていくことが重要です。
- ・ 高齢者や働き盛りの世代は、生活習慣病になりやすい世代でもあるため、関係機関と連携しつつ、健康支援を図っていく必要があります。
- ・ 健康づくりを個人の問題とするのではなく、社会全体の問題と捉え、健康や食育に関する正しい知識を広げるとともに、健康のために食生活を見直す等の行動がとれるよう支援を行っていく必要があります。

理想とするまちの姿

- ・ 健康に関する正しい知識が広く認知され、日頃から健康について学び、考え、意識し行動することで、心身ともに健やかに暮らしています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市では、健康づくりがしやすい環境が整っている	【Well-being】指標 健康増進の取組に関する市民の満足度を示す。	3.44	R5	3.60	3.70
各種健康診断などの健康づくり対策に満足している市民の割合	健康でいるための満足度を示す	57.4%	R5	59.9%	62.0%
日常的に健康づくりを行っている市民の割合	健康づくりの実践率を示す	54.3%	R5	56.9%	59.0%
特定健診受診率	生活習慣病予防への市民の関心度を示す	58.5%	R5	60.6%	70.0%

【行政】担当課：健康増進課・国保年金課

施策の方向性

- 地域・各種団体等が一つになって、健康づくりを推進し、市民の健康意識を高めます。
- 講演会や健康教室を開催し、市民に不足している知識を増やす機会をつくり、健康に対する意識改善を促します。
- 健診の重要性を周知し、毎年健診で自身の身体状況の確認することを推進します。
- 各種健診や健康教室などの事業を実施し、疾病の早期発見及び生活習慣病の予防に取り組めます。

重点事業

- 幸せ実感！南アルプス市健康リーグの推進
- 健康づくりのための情報提供・普及啓発
- 教室・講演会の開催
- 健診・健康相談事業の実施

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市健康かがやきプラン（健康増進計画・食育推進計画）
- データヘルス計画及び特定健康診査等実施計画書
- 山梨県後期高齢者医療広域連合の広域計画

【市民】

- 一人ひとりが健康に関心を持ち、健康の保持増進に努めます。
- 定期的に健診を受け、健診結果を生かし主体的に健康づくりに取り組みます。

【事業者】

- 従業員に対する健診の受診や健康教室等への参加に向けた、周知・啓発を行い、健康づくりのしやすい環境を整えます。
- 地域の関係団体と連携し、健康づくりを増進します。



施策 1 2 : 地域医療の充実



現状と課題

- 市民が急な病気やけがをした時に相談できる救急電話相談窓口「救急安心センターやまなし # 7 1 1 9」を導入し、相談体制を整えるとともに、受診希望者のトリアージを行うことで夜間帯の適正受診の推進を図っています。
- 一方、医師の高齢化の進展や医師の働き方改革による救急医療の担い手が不足していることに加え、二次救急医療機関に多くの軽症患者が流入することで医療機関に負担がかかっており、救急医療体制の安定的な継続が困難となっています。
- 市民へ救急医療の適正利用等について理解を促すとともに、救急医療機関の負担軽減を図るために、広域的な検討を進め持続可能な救急医療体制を整備する必要があります。
- 今後、発生が想定される大規模災害や新たな感染症に備え、県や医師会、関係機関と連携し、医療体制の整備や充実を図る必要があります。

理想とするまちの姿

- 市民が医療について相談をできる体制が整備され、安心して適切な医療を受けることができます。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市は、医療機関が充実している	【Well-being】指標 医療体制の充足に対する市民の満足度を示す	3.33	R5	3.50	3.60
#7119 を知っている市民の割合	相談窓口である#7119の認知度を示す	—	—	34.9%	40.8%

【行政】担当課：健康増進課・国保年金課

施策の方向性

- 市民が安心して適切な医療が受けられるよう、地域医療が継続できる体制を整備します。
- 地域医療の維持に向け、適正利用について市民の理解が得られるよう関係機関と連携を図り、効果的な取組を検討します。

重点事業

- 市民への適正受診の啓発
- 「救急安心センターやまなし # 7 1 1 9」の周知・啓発
- 医療 DX による医療情報の利活用を通じた効果的・効率的な保健事業の実施
- 大規模災害及び新たな感染症発生時における医療体制の整備・充実

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市健康かがやきプラン（健康増進計画・食育推進計画）
- データヘルス計画及び特定健康診査等実施計画

【市民】

- 健診を定期的に受診し、病気の早期発見・早期治療につなげます。
- 生活習慣病など重症化する前に医療機関を受診します。
- 健康について気軽に相談できるよう、かかりつけ医・かかりつけ薬局をもつようにします。

【事業者】

- 救急医療体制の維持に向け、医療機関相互および関係機関との連携を強化します。
- 関係機関と連携し、適正な医療機関の受診や健康づくりについて、市民へ周知・啓発を行います。



施策 1 3 : 保育環境の充実

現状と課題

- 保育所等において待機児童は発生していませんが、利用ニーズは高い状況です。保育士の処遇改善や働き方改革などとあわせて、0～2 歳児の入所受け入れ体制を強化し、一時預かり事業の拡充などにより保育の量を確保することが課題となっています。
- 医療的ケア等の支援を必要とする児童や外国籍児童の入所、食物アレルギーなどへの専門的な対応など、保育の質の確保が求められます。
- 子育てを行う家庭の経済的負担の軽減を図るため、本市独自の子育て支援策として令和 4 年度から認可保育施設等に入所する全児童の保育料の無償化、市内保育施設等で実施する一時預かり事業の利用料の無償化を実現しています。
- 放課後児童クラブにおける待機児童は発生していませんが、現在の施設による受け入れは限界に来ており、今後、待機児童の発生が予想されます。受け皿の確保のため、新たな施設整備や、学校や児童館などの既存施設の有効利用が必要となっています。

理想とするまちの姿

- 子育て世帯と子どもたち一人ひとりの声に耳を傾け、それぞれの想いに寄り添い、家庭や地域、学校、保育所等と力を合わせて、子どもたちの成長を通じて希望と喜びが感じられるまちになっています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市では、安心して子どもを預けられる環境がある	【Well-being】指標 子育て支援の取組に対する市民の満足度を示す	3.51	R5	3.70	3.80
「南アルプス市は子育てしやすいまちだ」と感じる市民の割合	子育て施策に対する市民の評価を示す	52.7%	R5	55.0%	55.0%
保育所などの保育環境に満足している保護者の割合	保育所などに対する保護者の評価を示す	98.6%	R5	98.6%	98.6%
放課後児童クラブの保育環境に満足している保護者の割合	児童クラブに対する保護者の評価を示す	※現在、アンケート実施中のため、次回審議会にてお示しします。			

【行政】担当課：子育て支援課

施策の方向性

- 保護者が安心して預けられるように、子どもの特性や発達過程に沿った適切な支援など、保育の質の向上を図ります。
- 保育所待機児童ゼロを維持するとともに、女性活躍の推進を後押しするため、0～2 歳児の入所受け入れ体制の強化など、保育の量の確保を図ります。
- 保育士の処遇改善や働き方改革など、保育人材の確保に努めます。
- 市内公立私立の認可保育施設等が、市民に向けて、安心安全な保育の提供を継続するため、相互に協力する体制の構築を目指します。
- 放課後の児童の居場所である放課後児童クラブへの多様なニーズに対応するため、プログラムの強化や専門性を持つ支援員の確保に努めます。また、新たな施設の整備や、学校や児童館などの既存施設の有効利用、民間事業者の活用など受け皿の確保を図ります。

重点事業

- 保育の質と量の確保
- 放課後児童クラブの質と量の確保
- 子育て世帯が安心して任すことができる保育の提供

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市こども計画

【市民】

- 地域において安心して子どもを産み育てることができるよう、子どもや子育て世代に気軽に声かけをします。
- 地域で近所の子どもたちが気軽に外遊びが出来る場や機会を設けます。

【事業者】

- 保育や一時預かりなどの子育てサービスの充実を図ります。
- 保育所や学校施設などを活用した、子どものための習い事や体験機会を設けます。
- 従業員が子育てしながら働きやすい職場環境の整備を推進します。



施策 1 4 : 子育て支援の充実



現状と課題

- 未満児の保育料無償化や学校給食費の無償化など、本市独自の子育て支援施策の充実により、安心して子育てできるまちとして認知され、市内へ転入する意欲の高まりのきっかけとなっています。
- 令和 5 年 3 月には「こども・子育て応援都市」を宣言し、こどもと子育て世帯への更なる支援の充実により、こどもとともに成長するまちを目指しています。
- 更に子育てしやすいまちづくりのためには、妊産婦や悩みを抱えたまま子育てをしている家庭、児童虐待に係わる相談支援など、妊娠から出産、乳幼児の育児、学童期、思春期の子どもへと成長していくまで、途切れることなく気軽に相談できる窓口の設置と、ニーズに応える支援の充実を図ることが必要です。

理想とするまちの姿

- 南アルプス山麓の緑豊かな自然のなかで子どもたちが健やかに生まれ、生まれ育った境遇によって、子どもたちの将来が左右されることがない社会が実現しています。
- 様々な相談窓口を通じて困難を抱える子どもやその保護者に必要な情報が届くことで、支援が得られるようになっています。
- 民間事業者や NPO との連携により、子育て世帯が気軽に利用できる様々な子育て支援サービスが充実しています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市では、子育て支援・補助が手厚い	【Well-being】指標 子育て支援の取組に対する市民の満足度を示す	3.58	R5	3.70	3.80
南アルプス市は子育てしやすいまちだと感じる市民の割合	子育て施策に対する市民の評価を示す	52.7%	R5	55.0%	55.0%
子育てについて気軽に相談できる相手や場所があると感じる市民の割合	子育て世帯の安心感を示す	65.9%	R5	69.0%	69.0%

【行政】担当課：子育て支援課・健康増進課・ふるさと振興課

施策の方向性

- 行政だけではなく、民間事業者や NPO などと連携し、子どもを産み育てる期間において気軽に相談できる窓口と必要とする支援を充実させることにより、育児放棄や児童虐待を防止します。
- 家庭状況や所得格差等により子どもの進路や将来が変わってしまうことを防ぐために、ひとり親家庭、低所得世帯、困難な問題を抱える世帯等に支援を行います。
- 地域の子育て支援団体や地域子育て支援拠点施設等との連携により、身近な相談窓口の充実を図ることで、子どもや子育てに関する情報提供や助言を行います。
- 子育て世帯の様々なニーズに応えることができるよう、民間事業者や NPO などとの連携により、子どものショートステイやファミリーサポート事業、伴走型子育て支援、こどもの居場所づくり等の充実を図ります。

重点事業

- こどもを育てるために必要な多様な育みの支援

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市こども計画

【市民】

- 地域において安心して子どもを産み育てることができるよう、子どもや子育て世代に気軽に声をかけをします。
- ファミリーサポート事業の支援員として積極的に協力します。

【事業者】

- 伴走型子育て支援（家事・育児支援）の事業を推進します。
- 民間において気軽に相談できる窓口機能の充実を図るとともに、行政との連携による支援を強化します。
- 地域の店舗や飲食店において、子育て支援のためのサービスの充実を図ります。



施策 15 : こども家庭相談体制の充実



現状と課題

- 児童虐待や自殺など、子どもや家庭を取り巻く問題が増加・深刻化する中で、子どもの最善の利益のため、これまで以上に母子保健と児童福祉の一体的な支援体制が求められています。
- 発達障害や不登校などの子育ての悩みを抱える保護者が増えており、具体的な対応について知ることができる機会や安心して過ごせる居場所が不足しています。

理想とするまちの姿

- 子育てが孤立しない環境の整備や地域づくりが実現しています。
- 子どもの権利を尊重し保護することのできる相談・支援体制が整っています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市には、子育てに困ったときに相談する行政の窓口がある	【Well-being】指標 子育て支援に関する相談窓口についての認知度を示す	3.52	R5	3.70	3.80
子育てについて気軽に相談できる相手や場所があると感じる市民の割合	子育て世帯の安心感を示す	65.9%	R5	69.0%	71.5%
児童虐待に関する通告・相談件数	市民が相談しやすい体制の充実を示す	152 件	R5	158 件	163 件

【行政】担当課：こども家庭相談課

施策の方向性

- 「こども家庭センター」を設置し、母子保健と児童福祉の一体的・包括的支援と連携強化を図り、予防的介入を通じて虐待等を未然に防止します。
- 子育てに関して困りを抱えた市民が相談しやすい体制の充実を図ります。
- 子育て世代の働き方や暮らしが多様化し、子どもの育ちも多様化する中、すべての子どもが安心して自分らしく過ごせる環境をつくるため、福祉・保健・教育・子育て支援・就労等の関係機関の連携による「途切れのない支援」を推進します。

重点事業

- こども家庭センターの設置と家庭支援の充実
- 途切れのない支援の推進
- 要保護児童対策地域協議会の運営

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市地域福祉計画
- 南アルプス市こども計画
- 南アルプス市障害者計画

【市民】

- 児童虐待をはじめとするこどもを取り巻く現在の課題について関心を持ち、市民一人ひとりができることに取り組みます。

【事業者】

- 「こども家庭センター」と連携しながら、子どもや保護者に対する適切な相談対応を行います。



施策 16 : 母子保健の充実



現状と課題

- 核家族化が進み、地域のつながりも希薄となる中で、孤立感や不安感等を抱く妊産婦・子育て家庭も少なくなく、全ての妊産婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができる環境整備や関係機関との連携強化が必要です。
- 妊娠期から出産・子育てまで一貫してより身近な場所で相談に応じ、ひとり一人に寄り添いながら関係性を深め、様々なニーズに即した必要な支援につなぐ伴走型支援の充実が求められています。
- 行政だけでなく、関係機関も含めた妊婦教室・パパママ学級の開催や、妊娠期からの交流の場づくり等、地域資源の確保・拡充が必要です。

理想とするまちの姿

- 全ての妊産婦が安心して妊娠・出産できる環境が整っています。
- 全ての子育て家庭が安心して育児ができ、こどもが健やかに育つ環境が整っています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市には、安心して妊娠・出産・育児ができる環境がある	【Well-being】指標 子育て支援の取組に対する市民の満足度を示す	3.26	R5	3.40	3.50
子育ては楽しいと感じる親の割合	子育てを肯定的に捉える保護者の割合を示す	88.8%	R5	90.0%	90.0%
ゆったりとした気分でこどもと過ごせる時間があると感じる保護者の割合	子育て支援策などの地方公共団体の取組を反映する指標	79.7%	R5	82.0%	84.0%

【行政】担当課：健康増進課

施策の方向性

- 全ての妊婦・子育て家庭に寄り添いながら相談に応じ、関係機関との情報共有を図ります。
- 関係機関とともに、未来のパパママが交流できる機会の確保により仲間づくりを促し、安心して出産・育児が行えるよう、必要な支援体制の充実を図ります。

重点事業

- ひとり一人に寄り添った伴走型支援の推進
- 関係機関との協働による教室開催や集いの場等の地域資源の創設・拡充
- 母子保健と児童福祉の相談・連携支援体制の充実
- 医療機関を含む関係機関との連携強化

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市健康かがやきプラン（健康増進計画・食育推進計画）

【市民】

- 母子ともに健康管理を行うとともに、定期健診を受診します。
- 行政や関係機関の情報を確認し、必要に応じて相談などを活用します。
- 出産・子育て経験者とのつながりを築いたり、子育てに関する SNS を通じた情報収集や仲間づくりを行います。
- 地域において子育て世代が気軽つながることのできる場づくりを推進します。

【事業者】

- 関係機関と連携しながら、母子保健に関する情報提供や相談、支援などを行います。
- 民間事業者や NPO などによる母子保健にかかるサービスを充実します。



施策 17 : 青少年健全育成の推進



現状と課題

- 共働き家庭の増加や地域社会とのつながりが希薄化するなど、家庭を取り巻く環境が変化中、不安を持つ保護者も多く、地域全体で家庭教育を支えることの重要性が高まっています。
- スマートフォン等の急速な普及により、インターネット上の有害な情報に触れたり、SNS に起因した事件や薬物などのトラブルに巻き込まれる青少年が増加することが懸念されます。

理想とするまちの姿

- 学校・家庭・地域・関係機関が相互に連携、協働し、地域の青少年がトラブルに巻き込まれることなく健やかに育つ環境が整っています。
- 青少年が地域の担い手となり、地域社会の維持発展に貢献するとともに、「生きる力」を育んでいます。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市には、青少年が健やかに成長できる環境がある	【Well-being】指標 青少年健全育成の活動に対する市民の満足度を示す	3.12	R5	3.30	3.40
私の暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	【Well-being】指標 若者の活躍しやすい雰囲気の醸成を示す	2.69	R5	2.90	3.10
家庭や地域において、健全育成のための青少年教育が行なわれていると感じる市民の割合	青少年健全育成に対する市民の評価を示す	34.1%	R5	34.5%	35.0%

【行政】担当課：生涯学習課

施策の方向性

- 家庭や学校、地域社会が連携・協働し、一体となり次代を担う青少年が健やかに育つ環境づくりに向けた取組を推進します。
- 地域社会との連携による様々な体験活動や交流活動の機会の充実に取り組み、子どもたちの豊かな心を育成します。

重点事業

- 青少年の安全で安心な社会環境づくりの推進
- 青少年の体験活動・交流活動の促進
- ジュニアリーダーの養成

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市教育大綱
- 南アルプス市教育振興プラン

【市民】

- 市民一人ひとりが、地域の子どもは地域で守り育てるという意識を深めます。
- 地域の子どもへの声かけを通じて、顔の分かる関係づくりを行います。

【事業者】

- 青少年の健全育成活動への関心を持ち、取組に対する協力や支援を積極的に行います。
- 青少年の体験活動などのために、積極的に場や機会を提供します。



施策 18 : 農林業の振興

現状と課題

- 農産物の販路拡大のため JA などと連携し、ブランド化や PR 活動、新規商品への果実利用の推進を図っています。
- 農業従事者の高齢化や後継者不足、農産物の価格低迷などによる農業所得の不足などの要因により農業の担い手が減少し、遊休農地が増加しています。
- 市内全域での有害鳥獣による農作物の被害が増加しています。被害に対応するための抜本的な対策が求められています。
- 森林については、一部で所有者不明の森林が増加しています。また、林業従事者の高齢化や後継者不足も課題となっており、私有林整備の促進が求められています。

理想とするまちの姿

- 農家所得向上・就農者の増加などが図られ、本市の基幹産業である農業が活性化しています。
- 遊休農地が減少し、農地が適切に利用・保全されています。
- 市の面積の大半を占める森林が健全な状態で保全され、森林の持つ公益的機能の維持・増進が図られています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市では、農業活動が積極的に行われている	【Well-being】指標 農業施策に対する市民の満足度を示す	3.66	R5	3.80	3.90
担い手の農地利用集積面積	市内の農地のうち、農業の担い手が借りている農地の面積を示すもので、効率的かつ安定的な農業経営が地域における農用地の利用を占める面積目標であるため、成果指標とした	920ha	R6	1,051 ha	1,181ha
遊休農地比率	適正利用がされていない農地面積の割合を示す	8.59%	R6	8.59%	8.59%

【行政】担当課：農政課・農林土木課・農業委員会事務局

施策の方向性

- 安定した農業経営が続けていけるよう、農産物の高品質化及び高付加価値化を図るとともに、総合特区制度を活用した6次産業化等の取組みを推進します。
- 有害鳥獣被害に対応するため、猟友会等、関係機関の活動を推進します。
- 農業従事者の高齢化や後継者不足に対応するため、新たな担い手の確保・育成のための取組を推進します。
- JAと連携して遊休農地解消と活用に向けた取組を行います。
- 意欲ある企業や個人への農地集積を行うため、基盤整備を推進します。
- 森林を健全な状態に保つため、整備の実施や病害虫の防除を推進します。

重点事業

- 農業生産基盤整備事業の推進
- 農作物のブランド化に向けた高品質化の推進
- 有害鳥獣対策事業の推進
- 遊休農地解消に向けた取組支援
- 新たな担い手確保の推進及び育成支援
- 森林管理基金活用による私有林整備及び森林病害虫防除の推進

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市農業振興地域整備計画
- 農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想
- 農業経営基盤の強化の促進に関する基本計画
- 南アルプス市森林整備計画
- 南アルプス市鳥獣被害防止計画
- 地域活性化総合特別区域計画

【市民】

- 農業施設の簡易修繕や草刈りなど、農地の保全管理に努めます。
- 新規就農者の農地の取得など、遊休農地解消に向けた取組に協力します。
- 企業等による農業分野への参入に対する有効性を理解します。
- 個人で所有する山林について所有権の把握と管理に努めます。

【事業者】

- 将来の農林業を支える人材の育成を推進します。
- 有害鳥獣被害の対策を推進します。
- 企業などの農業参入による遊休農地の解消を推進します。
- 高品質で付加価値の高い作物の栽培や販路拡大など、儲かる農業に向けた取組を推進します。



施策19：商工業の振興



現状と課題

- 県内経済の活性化のためには、県外からの企業誘致や新規事業の創設が重要となる。一方で、地元企業の活性化も必須の要素であり、すべての事業者が安定した経営を続けられる環境の整備が必要です。
- 中部横断自動車道の開通やリニア中央新幹線の開業、「fumotto 南アルプス」を中心とした南アルプスIC周辺地域の整備などの機会を適切に捉え、地域経済の発展につなげていく必要があります。

理想とするまちの姿

- 新たに立地した企業や新規創業者により新たなビジネスが生まれ、地域経済が活性化しています。
- 地元企業においても、販路拡大や雇用の確保・人材育成などが適切に行われ、持続可能な経営が実現しています。
- 新たに立地した企業と地元企業・地元経済団体などが連携することで、市内全域の事業者が安定した経営を続けることができています。
- 多様な事業者が存在し、市民の就職・買い物などにおいて多くの選択肢が確保されています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市は、日常の買い物にまったく不便がない	【Well-being】指標 生活環境に対する市民の満足度を示す	3.43	R5	3.60	3.70
暮らしている地域には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	【Well-being】指標 新規創業や挑戦、地域経済の活性化に対する市民の満足度を示す	2.70	R5	2.90	3.10
営業所得の申告者数	営業所得者の人数を示す	3,115 件	R5	3,115 件	3,115 件
製造品出荷額	製造品の出荷額の状況を示す	264,432 千円	R5	264,432 千円	264,432 千円

【行政】担当課：商工振興課

施策の方向性

- 新規創業者や、新たなビジネス創出に対するサポートを行います。
- 商工会等と連携した県外や海外へのプロモーションによる販路拡大、事業拡大への支援、後継者不足問題への助言などを通じて、地元企業の経営を支援します。
- 新たに立地した企業と地元企業、経済団体などが連携し、活発な経済活動が推進されるよう支援します。
- 企業ガイダンスや合同説明会などを通じて、若者を中心とした市内への就業・雇用を促進します。

重点事業

- 販路拡大、事業拡大等への支援
- 新規創業への支援、市内での就業・雇用の促進

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市創業支援等事業計画

【市民】

- 地元事業者による経済活動への理解を深めます。
- 地元事業者に興味・関心を持ち、商品やサービスを積極的に利用します。

【事業者】

- 地域経済の発展に向けて、活発な経済活動を推進します。
- 経済活動が地域の豊かさにつながるよう、市民を積極的に雇用します。
- CSR(企業の社会的責任)活動や地域貢献活動に積極的に取り組みます。
- 経済活動への理解を醸成するため、市民との交流機会を積極的に設けます。



施策20：企業誘致の推進



現状と課題

- 土地情報等の調査を行い、企業が進出しやすい環境を整えるとともに、進出意欲のある事業者へ支援を行っています。
- コロナ禍が収束し、企業が立地を望む声が多くあるが、誘致対象地の整備が追いついておらず、機会損失が生じています。
- 中部横断自動車道の開通やリニア中央新幹線の開業などにより経済圏が大幅に拡大することから、この強みを最大限に活かした都市的土地利用への転換を図る必要があります。

理想とするまちの姿

- 工業団地等の整備により企業が立地し、地域経済が活性化して「魅力と活力ある持続可能なまちづくり」体制が構築されています。
- 多くの企業が集積することで、市内の雇用・就業機会が確保されています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市では、やりたい仕事を見つけやすい	【Well-being】指標 市内での就業に対する満足度を示す	2.55	R5	2.80	3.00
土地売買契約等を締結した企業の数	実際に誘致し操業開始をした企業数を示す	4件	R5	12件	14件

【行政】担当課：商工振興課

施策の方向性

- 企業の用地需要の増加や中部横断自動車道の開通、リニア中央新幹線の開通を見据え、優良な土地の確保・整備を推進します。
- 優良企業の立地・集積を目指し、県や商工会との情報交換を行い、企業の誘致活動を推進します。

重点事業

- 新規工業団地エリアの調査・整備
- 企業の誘致活動の推進

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市地域開発事業経営戦略

【市民】

- 新たに立地した企業に対する興味・関心を持ち、企業誘致に対する理解を深めます。

【事業者】

- 市内への積極的な立地を検討します。
- 市民へ立地企業の理解を醸成するため、学校への出前授業やイベントへの参加など、市民との交流機会を積極的に設けます。
- 地元雇用に努めます。



施策2-1：観光の振興



現状と課題

- 中部横断自動車道の開通による静岡県、愛知県等の東海エリアからのアクセス向上やリニア中央新幹線の開通を踏まえたインフラの整備が見込まれます。
- 国内外からの観光客の増加など多様化する観光客のニーズへ対応するため、コンテンツの充実や効果的な情報発信、PR活動が必要です。
- 観光の推進にあたっては、ユネスコエコパークの理念である「自然との共生」という考え方を取り入れ、エリアごとに保全と活用を図っていく必要があります。
- 「fumotto 南アルプス」の整備・活用により交流人口の拡大を図るとともに、来訪者を市内の観光拠点へ誘導する仕組みづくりが必要です。

理想とするまちの姿

- 山岳や果物など、自然資源の恩恵を受けた魅力ある観光資源や、歴史的・文化的資源が活用され、効果的に発信されることで国内外から多くの観光客が訪れるとともに、地域の人々との交流を通じた賑わいが創出されています。
- 多くの観光拠点が整備されるとともに、各拠点を結ぶ面としての観光が確立されることで、回遊性が生まれ、観光客の滞在時間が延びています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市には、観光資源が豊富で誇らしい	【Well-being】指標 観光振興の取組に対する市民の満足度を示す	3.04	R5	3.20	3.30
南アルプス市への入込客数	観光客の市内への訪問状況を示す	440,393人	R4	760,000人	810,000人

【行政】担当課：観光推進課・観光施設課

施策の方向性

- 多様化する観光客のニーズを把握し、利用者の求める観光サービスを提供することにより、持続可能な観光の推進を図ります。
- 従来の自然や果樹に加え、歴史的・文化的資源の観光への活用などを促進し、観光拠点を増やします。それらを連携させることで、「点」ではなく「面」としての観光を創り出し、滞在時間の延伸、満足度の向上を目指します。
- 関係機関と連携し観光情報を魅力的に分かりやすく発信します。
- 「fumotto 南アルプス」の整備・活用により交流人口の拡大を図るとともに市内の観光拠点に誘導し、市全体の観光の活性化につなげます。

重点事業

- 多様化する観光客のニーズに対応したサービスの提供
- 周辺市町村と連携した広域的な観光の推進
- 多種多様な媒体を通じた観光情報の発信
- 持続可能な観光を推進するための基盤整備
- 民間活力を導入したエコパ伊奈ヶ湖の整備・運営

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市シティプロモーション戦略
- やまなし観光推進計画（山梨県策定）
- 南アルプス市過疎地域持続的発展計画
- 櫛形山及び伊奈ヶ湖周辺保全活用基本構想

【市民】

- 市民一人ひとりが観光客の受け入れに対する理解や、地域の観光資源への興味・関心を持ちます。
- 地域の観光スポットを訪れ、SNSなどで積極的に情報発信を行います。

【事業者】

- 様々な事業者との連携により観光事業へ積極的に参入します。
- 事業活動を通じて地域の観光資源を積極的に活用するとともに、積極的に情報発信を行います。



施策 2 2 : 交流と定住促進



現状と課題

- 本市の人口は平成 25 年以降、減少傾向にあったが令和 4 年、令和 5 年と自然減を社会増が上回ることによって増加に転じています。一方で少子高齢化や若年層の東京圏への流出によって、本市においても今後の人口減少対策が課題となっています。
- 空き家を活用した移住・定住へのニーズが高まりをみせていることから、空き家バンク制度をさらに充実させていく必要があります。
- 芦安地域には、各種イベントを通じ多くの人々が訪れています。今後、この交流人口を移住に繋げていく必要があります。
- 若者・子育て世代やシニア世代等、各世代それぞれの属性に向けた情報発信の強化が必要です。

理想とするまちの姿

- 魅力と地域力を高めることで「住みたいまち」として本市が選ばれ、多くの移住者が市民として定住しています。
- 若年層にとって魅力的な仕事があり、将来にわたり地域で暮らし続ける環境が整っています。
- 移住者と地域住民が交流し、ともに魅力あふれるまちづくりに貢献することで、市民が誇りと愛着を持てる、活力あるまちが形成されています。
- 移住・定住に関する施策の一環として空き家の利活用が図られ、移住・定住者に提供されています。
- 過疎地域においても、交流人口の拡大を通じ、本市の豊かな自然に魅力を感じた移住者が増加しています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
私は、南アルプス市に対して愛着を持っている	【Well-being】指標 地域の魅力に対する市民の満足度を示す	3.85	R5	4.00	4.10
南アルプス市は、住みやすい地域だと感じる市民の割合	市民にとって住みやすい地域であるか市民の評価を示す	65.9%	R5	70.0%	70.0%
南アルプス市に住み続けたいと思う市民の割合	住み続けたい市であるか市民の評価を示す	69.8%	R5	70.0%	70.0%
市人口社会増減数		421 人増	R5	425 人増	425 人増

【行政】担当課：ふるさと振興課・政策推進課・秘書課・農政課・管理住宅課

施策の方向性

- 地域の特性を活かした活性化策を講じ、本市の魅力を発信するとともに、移住・定住を希望する人への支援を充実させ、移住・定住の促進を図ります。
- 移住・定住相談会の開催などを通じて、各種支援事業や空き家バンク制度の活用を推進します。
- 都市部から訪れる地域おこし協力隊・滞在型都市農園であるクラインガルテンの利用者などの多様な関係人口の創出・拡大を目指します。

重点事業

- 移住・定住希望者への説明会や相談会等の実施
- 空き家バンク制度の利活用
- 移住・定住に関する支援の充実
- 若年層をターゲットにした将来的な U ターンを促進する活動
- シティプロモーションによる魅力・情報発信

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 南アルプス市シティプロモーション戦略
- 南アルプス市過疎地域持続的発展計画

【市民】

- 地元住民と移住・定住者との交流機会を積極的に設け、互いの理解を深めます。
- 空き家の有効活用に向けて各種制度を積極的に活用します。

【事業者】

- 若者の地元定着に向けて、新たな雇用を創出します。
- 移住・定住者や地域おこし協力隊と連携した新たな経済活動を推進します。



施策 2 3 : 自然との共生



現状と課題

- 市民アンケートによると、ユネスコエコパークの認知度は、登録当時40%近くありましたが直近5年間は30%台前半で推移しており、市民のユネスコエコパークに関する関心が薄くなっている状況です。その理由として、ユネスコエコパークのイメージが、北岳などの高山地帯であり、市民には身近なものとして捉えられていないことや、日常的に「ユネスコエコパーク」を目にしたたり聞いたりする機会が限られていることなどが考えられます。
- 市職員がユネスコエコパークについて正しく理解し、政策的に取り組まなければならないものの、庁内での意識の統一ができていない状況です。
- 群生地であった櫛形山のアヤメの保全については、少しずつ成果が表れていますが、希少動植物の保全と合わせて継続的な活動が求められます。

理想とするまちの姿

- ユネスコエコパークの理念を踏まえて、地域の豊かな自然を活かした持続可能な社会経済活動が行われています。
- 市民や市職員がユネスコエコパークについて理解し、それを誇りに感じるとともに、その価値を次世代につなげる取組を行っています。
- ユネスコエコパークの核心地域を中心に生物多様性が保全されるとともに、緩衝地域において自然環境の保全と利活用が行われています。
- ネイチャーポジティブ宣言都市として、生物多様性の損失を止め、反転させ、回復軌道に乗せることの実現に向けた取組を行っています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市では、身近に自然を感じることができる	【Well-being】指標 地域の魅力に対する市民の満足度を示す	4.27	R5	4.30	4.30
ユネスコエコパークについて「知っている」と回答した市民の割合	ユネスコエコパークの認知度を示す	34.5%	R5	41.0%	46.0%
芦安山岳館の入館者数	ユネスコエコパークへの関心を示す	4,091人	R5	4,200人	4,200人

【行政】担当課：観光推進課

施策の方向性

- 幅広い年齢層に対するユネスコエコパークの理解度を高めるため、各種イベントなどでの啓発ブースの出展やワークショップを開催します。
- 関係機関と連携し、学校教育における学習支援事業や生涯学習における自然環境体験プログラムなどを実施します。
- 市職員の意識向上を目的とした若手職員への研修やインターンシップ学生の受け入れ、緩衝地域での自然環境の保全活動に対するボランティアの募集などの情報発信を行います。
- ネイチャーポジティブの実現に向けた取組を、企業・団体・市民とともに推進します。
- 櫛形山のアヤマの保全活動とともに、希少動植物の保全に向けた調査や対策を継続して実施します。

重点事業

- ユネスコエコパークの周知活動の推進
- ネイチャーポジティブの実現に向けた取組の推進

関連する分野別個別計画

- 南アルプスユネスコエコパーク管理運営計画
- エコパ伊奈ヶ湖周辺生物多様性回復計画

【市民】

- ユネスコエコパークへの興味・関心を持ち、持続可能な地域づくりに向けた理解を深めます。
- 自然環境の保全活動に積極的に参加します。

【事業者】

- ユネスコエコパークへの理解を深め、持続可能な経済活動に向けた取組を推進します。
- 生物多様性の保全や持続可能な社会の実現に向けた活動への支援や参加を行います。



施策 2 4 : 生活環境の保全



現状と課題

- ・ 市民 1 人 1 日当たりのごみ排出量は減少傾向にあることから市民の意識が向上していると考えられますが、さらなるごみの減量化と再資源化が求められます。
- ・ 廃棄物のリサイクル率は低下傾向にあります。その理由として、民間企業の店頭回収による収集量の分散、昨今の急速なペーパーレス化による古紙類全体の減少が考えられます。
- ・ 金山沢川小水力発電施設で発電した電力を近隣 3 施設に電力供給するとともに余剰電力を売電していますが、施設の老朽化等に伴い発電量が低下しています。
- ・ 不法投棄の監視、指導、啓発活動等により市内の不法投棄は減少傾向にありますが、引き続き監視や指導を徹底し、さらなる不法投棄の減少が求められています。
- ・ 市内の河川の水質は向上傾向にありますが、更なる水環境の保全に努めることが求められます。

理想とするまちの姿

- ・ 市民一人ひとりが環境問題を意識し行動することで、良好な生活環境が保全されています。
- ・ 脱炭素化社会の実現に向けて省エネルギー化とクリーンエネルギーの導入が進んでいます。
- ・ 地球温暖化を防止するためにも、ごみの排出量の削減やリサイクルの推進を行っています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである	【Well-being】指標 環境問題や環境保全の取組に対する市民の満足度を示す	3.66	R5	3.80	3.90
市民 1 人 1 日当たりのごみ排出量（可燃物・不燃物）	ごみの排出量削減の取組を示す	478	R5	435	402
生活排水クリーン処理率	河川の水質の清濁を示す	80	R5	85	88
公共施設における CO2 排出量	公共施設による CO2 削減の成果を示す	4,900	R5	4,173	3,568

【行政】担当課：環境課

施策の方向性

- ごみの分別方法の周知徹底を行うなど、市民のごみ処理に対する意識を高めていくことにより、ごみの減量化と再資源化をさらに進めます。
- 単独浄化槽や汲み取り槽から合併浄化槽への転換を図るため、周知や助成を行います。
- 金山沢川小水力発電施設の維持を図るなど、公共施設におけるCO₂排出量の削減に努めるとともに、脱炭素化に向けた市民の取組を支援します。
- 豊かな自然環境や良好な生活環境を維持するために、ごみの不法投棄の防止に努めます。

重点事業

- ごみの適正処理、減量化、再資源化の推進
- 不法投棄防止対策の推進
- 合併浄化槽整備の推進
- 脱炭素化の推進

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市環境基本計画
- 一般廃棄物処理基本計画
- 南アルプス市新エネルギービジョン
- 南アルプス市地球温暖化対策実行計画

【市民】

- 身近なことから地球規模まで様々な環境問題を自分事として捉え、環境保全に対する意識を深めます。
- 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の意識を持ち、ごみの分別と減量に取り組めます。
- 不法投棄をしない、させないことを意識します。

【事業者】

- 事業系廃棄物の削減を図るとともに、リサイクルやアップサイクルなどの資源の有効活用に向けた取組を推進します。



施策 2 5 : 道路・交通基盤の整備



現状と課題

- 道路施設の安全性・快適性の向上を図るためには、計画的な道路網の整備や渋滞対策、歩道空間の設置等が必要です。
- 道路施設の老朽化が進む中で、定期的な安全点検と修繕が重要であり、長寿命化修繕計画に基づき優先順位を決め対応していますが、国の補助配分額により計画が左右されることがあります。
- 現在はコミュニティバスの年間利用者数は約 8 万人と増加傾向にあるものの、利用者のニーズの把握が困難な面があります。fumotto 南アルプスの開業やリニア中央新幹線の開通を見据えつつ、地域の特性やニーズに対応し、地域の交通資源を最大限活用できる新たな地域公共交通網の形成が必要となります。
- 中部横断自動車道の双葉 JCT から白根 IC 間は 4 車線化の優先整備区間となっていますが、白根 IC 以南（増穂 IC）の 4 車線化が課題となります。

理想とするまちの姿

- 市内の道路網の整備や改修が行われ、道路施設や歩行空間の安全性・快適性の向上、主要幹線道路の渋滞が緩和されています。
- コミュニティバスの利用者が増加し、公共交通による市民の移動の利便性が向上しています。また、市外へのアクセス方法が増え、市民だけでなく市に訪れやすい環境が整っています。
- 市内外を結ぶ広域道路ネットワークが充実し、産業や観光の活性化、防災面の強化につながっています。
- 市道の構造や区域など道路データの管理及び補正が適切に行われ、現況に合致した道路台帳が整備されています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市では、歩道や信号が整備されていて安心である	【Well-being】指標 交通安全の取組に対する市民の満足度を示す	3.27	R5	3.40	3.50
私の暮らしている地域では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	【Well-being】指標 公共交通整備の取組に対する市民の満足度を示す	2.17	R5	2.60	3.00
南アルプス市は、道路網が十分に整備されている	【Well-being】指標 道路網整備に対する市民の満足度を示す	3.32	R5	3.50	3.60
コミュニティバスの年間利用者	コミュニティバスの利用状況を示す	86,059人	R5	102,780人	116,680人

【行政】担当課：道路整備課・都市計画課・管理住宅課・市民活動支援課

施策の方向性

- 道路施設の適切な維持管理や長寿命化対策を推進するとともに、必要な道路整備や安全な歩行空間の確保、渋滞緩和に努めます。
- コミュニティバスの利用拡大に向けて、事業の周知や市民ニーズを踏まえた路線の再編、市外へのアクセスの向上を検討します。
- 新鏡中条橋（仮称）の具体的な整備方針の決定に向けて関係団体と協議を進めます。
- 中部横断自動車道の白根 IC 以南の 4 車線化を、継続して国に要望していきます。

重点事業

- 道水路の維持管理の推進、橋梁・舗装長寿命化の推進
- コミュニティバス路線再編の検討・整備
- 国道県道等の整備促進
- 道路データ随時更新による適正管理の実施

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市都市計画マスタープラン
- 南アルプス市橋梁長寿命化修繕計画
- 南アルプス市舗装長寿命化修繕計画
- 南アルプス市地域公共交通計画

【市民】

- 身近な道路や水路の清掃など自主的な維持管理を行います。
- 路線バスやコミュニティバスを積極的に利用します。

【事業者】

- 市との協定に基づき、平時及び緊急時における交通インフラ等の維持管理に協力します。



施策 26 : 都市空間の構築



現状と課題

- 本市の都市機能は、旧町村圏域に分散して立地していますが、今後の人口減少と高齢化社会の進展により、コンパクトなまちづくりが求められています。
- 市の玄関口として南アルプス IC 周辺に整備された fumotto 南アルプスの北側エリアでも事業化が進んでいますが、さらなるにぎわい創出のため、周辺を含めた一体的な整備が求められています。
- 自然と調和した景観を目指していますが、まちなみや自然環境とそぐわない建築物や屋外広告物が見受けられます。
- 令和 7 年度にはリニア中央新幹線山梨県駅（仮称）の着手が見込まれており、効果を最大限活用する都市整備が求められています。
- 市全体で長期間放置状態の空き家による悪影響が懸念されています。
- 木造住宅の耐震診断や耐震改修等の支援に取り組んでいますが、更なる成果向上を図る必要があります。

理想とするまちの姿

- 豊かな自然と都市機能が調和した快適で便利なまちが実現しています。
- 南アルプス IC 周辺では、市の玄関口として「にぎわいの場」の整備が進んでいます。
- 周囲のまちなみと調和した良好な景観が形成されています。
- 木造住宅の耐震化が促進され、安全で住みやすいまちづくりが実現しています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市には、まちなか、公園、川沿い等で心地よく歩ける場所がある	【Well-being】指標 都市空間整備の取組に対する市民の満足度を示す	3.61	R5	3.80	3.90
住みやすい地域だと感じている市民の割合	居住空間としての市民の評価を示す	65.9%	R5	69.0%	72.0%
市内の街並みや景観は美しいと感じている市民の割合	街並みや景観への市民の評価を示す	51.1%	R5	55.0%	58.0%
管理が不十分と判断された空き家の戸数	周辺の住環境に悪影響を与える空き家の戸数を示す	323 戸	R5	260 戸	210 戸

【行政】担当課：都市計画課・政策推進課・管理住宅課

施策の方向性

- 分散する都市機能の集約化と既存集落が連結した都市を実現するための土地利用を推進します。
- 市民の憩いの場となる都市公園の継続的な利活用のための運営・維持管理を推進します。
- ユネスコエコパークの理念に基づき、自然と調和した景観形成を図るため、支援や仕組みを充実し、市民との協働により故郷に誇りや愛着が持てるまちづくりを推進します。
- リニア中央新幹線の開通を見据えた魅力あるまちづくりを推進します。
- 空き家対策の推進に向け、総合的な窓口となる体制づくりの構築に取り組みます。
- 既存木造住宅耐震診断や耐震改修の必要性を幅広く周知し、耐震性の向上を図ります。

重点事業

- 都市計画マスタープランに基づくまちづくりの推進
- 都市公園長寿命化計画に基づく継続した公園の維持管理
- 景観計画に基づく景観形成の推進
- 空き家対策の推進
- 屋外広告物の指導の推進
- 木造住宅耐震改修の支援

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市都市計画マスタープラン
- 南アルプス市景観計画
- 南アルプス市都市公園長寿命化計画
- 南アルプス市公営住宅等長寿命化計画
- 南アルプス市緑の基本計画
- 南アルプス市空家等対策基本計画
- 南アルプス市耐震改修促進計画

【市民】

- まちなみや景観に関する規制への理解や意識を深めます。
- 景観の保全や改善への活動に参加します。
- 空き家の適正管理に努めます。
- 木造住宅耐震診断やそれに基づく耐震改修等を実施します。

【事業者】

- 良好なまちなみや景観を意識した魅力あるまちづくりに取り組みます。
- 市民に対し、各種制度内容に沿った専門的な提案・アドバイスをを行います。



施策 27 : 上下水道の整備



現状と課題

- 今後の人口減少に対し、市民の生活基盤の安定性が損なわれることのないよう、上下水道事業の収益性の維持が課題となります。このため、事業コストを踏まえ老朽化施設の耐震化や更新を計画的に行うとともに、利用者の適正な負担が必要となります。
- 上水道施設や管路が更新時期を迎えており、計画的な老朽化対策及び耐震化対策が課題となっています。
- 下水道施設の整備率及び普及率は、全国及び山梨県平均より低いことが課題となっています。

理想とするまちの姿

- 市内の需要を踏まえて、安全・安心な水道水が安定的かつ効率的に供給されています。
- 水域の水質保全が図られ、衛生的な生活環境が整っています。
- 上下水道施設の耐震化により、災害に強いまちづくりにつながっています。
- 公営企業として採算が保たれ、持続可能な運営が行われています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市の水道の水がおいしいと感じる	【Well-being】指標 生活用水の利用に対する市民の満足度を示す	3.71	R5	3.90	4.00
基幹管路総延長に対しての耐震管・準耐震管路の割合（基幹管路の耐震適合率）	水道の安定供給対策の進捗度を示す	39.6%	R5	45.6%	50.6%
市総人口に対しての下水道処理区域内人口の割合（下水道処理人口普及率）	下水道施設の普及率を示す	58.72%	R5	68.45%	76.7%
下水道処理区域内人口に対しての下水道使用人口の割合（下水道水洗化率）	汚水処理施設による生活排水の適正処理状況を示す	88.01%	R5	89.81%	91.31%

【行政】担当課：上下水道局総務課・経理課・工務課・浄水管理課・給排水課

施策の方向性

- 上下水道事業の安定化のために、収益と投資とのバランスを維持するための効率的な維持管理を推進します。
- 老朽化している上水道施設や管路の耐震化を計画的に実施し修繕費の抑制と有収率の向上を図ります。
- 下水道未普及の解消を進めながら合理的で適切な污水处理を検討するとともに、整備済み区域における市民への普及・啓発を行います。

重点事業

- 上水道の計画的な施設及び管路の更新（耐震化）
- 合理的で適切な污水处理の検討及び計画的な整備
- 上下水道の適正な運営と管理

関連する分野別個別計画

- | | |
|--------------------|---------------------|
| • 南アルプス市水道ビジョン | • 南アルプス市水道事業中長期計画 |
| • 南アルプス市水道事業統廃合計画 | • 南アルプス市水道事業経営戦略 |
| • 南アルプス市水道事業実施計画 | • 南アルプス市公共下水道全体計画 |
| • 南アルプス市污水处理施設整備構想 | • 南アルプス市公共下水道事業計画 |
| • 南アルプス市下水道事業経営戦略 | • 南アルプス市公共下水道雨水全体計画 |

【市民】

- 水環境や上下水道に対する理解を深めます。
- 上下水道の適正な負担への理解を深めます。
- 下水道が使用できる区域において下水道への接続を行います。
- 上下水道の工事に対する理解と協力を行います。

【事業者】

- 市との協定に基づいて、緊急時の上下水道施設等の維持管理及び復旧活動に協力します。
- 上下水道の工事に対する理解と協力を行います。



施策 28 : 生涯学習の推進



現状と課題

- ・ ライフスタイルや娯楽の多様化が進む中、市民の様々な生涯学習ニーズに対応ができるよう、学びやスポーツに親しむ機会を充実させ、かつ、安全で快適に活動できる環境を整備する必要があります。
- ・ 生涯学習講座やスポーツイベントなどにおいては、若年層の参加者が少ないことから、若者の参加の動機付けや情報発信の方法が課題となっています。
- ・ 図書館では市民の課題解決に役立つサービスを提供していますが、読書離れも進んでいることから、電子書籍を含む資料の充実と特色を持った図書館づくりなどの取組みを広く周知する必要があります。

理想とするまちの姿

- ・ 市民が生涯にわたり学び続け、スポーツ、読書や文化芸術活動などに継続して親しむ機会が確保され、自身が興味のあることを学び楽しむことができる環境が整っています。
- ・ 市民一人ひとりが生涯学習を通じた自己啓発により社会への参画意欲が育まれ、地域の担い手となっています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市では、学びたいことを学べる機会がある	【Well-being】指標 多様な学びができることに対する市民の満足度を示す	2.96	R5	3.20	3.40
趣味や娯楽を含め生涯学習を行っている」と回答した市民の割合	生涯学習の実践状況を示す	31.4%	R5	32.6%	33.8%
習慣的にスポーツやレクリエーション活動を行っている」と回答した市民の割合	スポーツ・レクリエーションの実践状況を示す	28.2%	R5	31.2%	34.3%
図書館レファレンスサービス（調査相談）件数	図書館の調査相談の利用状況を示す	5,741 件	R5	6,855 件	7,947 件

【行政】担当課：生涯学習課・市立図書館

施策の方向性

- 幅広い年代の市民一人ひとりの学びの動機づけとなるよう、多様な学習ニーズに対応する学習機会の提供と学習内容の充実に取り組みます。
- スポーツ活動に親しむ機会を充実させ、誰もがスポーツに取り組める環境づくりを推進します。
- 図書館では、地域に根ざした資料の収集やレファレンスサービス、読書支援を行い、生涯学習の拠点として、市民の学びに幅広く役立つ図書館サービスを展開します。

重点事業

- 生涯学習活動の推進
- 生涯スポーツ活動の推進
- 読書活動の推進

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市教育大綱
- 南アルプス市教育振興プラン
- 南アルプス市子どもの読書推進計画
- 南アルプス市教育施設長寿命化基本計画

【市民】

- 生涯学習やスポーツ、文化・芸術鑑賞などに関心を持ち、様々な活動を通じて豊かな心を育みます。
- 生涯学習を通じて、新たなコミュニティを形成します。
- 生涯学習を通じて学んだ知識やスキルを、地域における様々な活動に活かします。

【事業者】

- 専門的な知識やスキルを活かした学びの場を提供します。
- 生涯学習を通じて、市民との交流機会を設けます。



施策 29 : ふるさと資源の保全と活用



現状と課題

- 市内に歴史的資源は数多く存在するものの、必ずしも認知度が高いわけではなく、掘り起こしが進んでいない資源も多くあります。
- 芸術作品の鑑賞を難しく捉え美術館へ行きにくいと感じる人もいることから、身近に親しむことができ、市民等の交流の場として魅力ある情報等を発信していく必要があります。
- 歴史的・文化的資源は「守るべきもの」という意識が強く、従来までは保全が取組の中心となっていましたが、今後は活用可能な「資産」という面を強く打ち出し、活用し、歴史的・文化的資源の価値を知ってもらったうえで保全に繋げていくというサイクルを確立させる必要があります。

理想とするまちの姿

- 市内の歴史的・文化的資源が適切に保存され、未来に受け継がれています。
- 歴史的・文化的資源が学校教育や生涯学習・観光やまちづくりに活用されることで、市民のふるさとを愛する豊かな心が醸成され、さらなる保全に繋がっています。
- 博物館や美術館が市民等の憩いの場となっています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	【Well-being】指標 歴史・芸術資源等の活用に対する市民の満足度を示す	3.03	R5	3.20	3.30
市の文化財や伝統文化を地域の宝として次世代に伝えていくことは重要だと考える人の割合	市民の歴史的・文化的資源への認知度を示す	53.0	R5	57.9%	58.4%
文化財や伝統芸能の保護や継承活動が推進されていると感じる人の割合	市民の歴史的・文化的資源への認知度を示す	72.8	R5	84.3%	84.8%

【行政】担当課：文化財課・市立美術館

施策の方向性

- 歴史的・文化的資源を収集・保全していくとともに、これらを活用するため、人々が手軽に触れ・体験し・理解して活用することができる環境を整備し、情報を発信していきます。
- 学校教育や生涯学習とも連携し、歴史的・文化的資源を市民の郷土愛や地元への愛着の醸成につながる資産として活用します。
- 歴史的・文化的資源の調査・研究及び価値づけを進めていくなかで、まちづくりや観光にも活用していきます。
- 博物館や美術館が市民等の感性を育み、市民の交流の場、情報発信の場となるよう運営していきます。

重点事業

- 歴史的・文化的資源の収集・保全
- 歴史的・文化的資源の調査・研究
- 歴史的・文化的資源の保全と活用のための環境整備
- 文化財分野・芸術分野における教育普及事業の推進

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市教育大綱
- 南アルプス市教育振興プラン
- 史跡御勅使川旧堤防（将棋頭・石積出）保存管理・整備基本計画

【市民】

- 自らが住むまちの歴史的・文化的資源を認知し、保全及び活用に努めます。
- 行政とともに歴史的・文化的資源の掘り起こしを行います。

【事業者】

- 行政や市民と連携し、歴史的・文化的資源を観光や産業に活用します。



施策 30 : 学校教育の充実



現状と課題

- 近年の学校教育においては、付加価値を生み、新たな社会を創造していく人材や、国際的視野をもち、個人や社会の多様性を尊重しつつ他者と共同して問題解決を行う人材の育成が求められており、新たな時代の流れに応じた教育が求められています。
- 建築後 40 年以上を経過し老朽化対策が必要な学校施設は全体の 4 割近くを占めており、これらの対応が大きな課題となっています。今後の整備では安全性や温熱環境など建物性能の確保を含め、ICT 環境の整備など新しい時代の学びに対応した教育環境向上と老朽化対策を一体的に進める必要があります。
- 不登校の原因は、集団生活の不適応や人間関係・勉強・生活環境など児童生徒により様々な原因があることから、不登校になる前に本人や保護者への相談支援や、本人の居場所づくりへの支援が求められています。

理想とするまちの姿

- 子どもたちが、自ら考え、判断し、表現する「確かな学力」、自身や他者とのかかわりに関する意識をもつ「豊かな心」、望ましい生活習慣や適切な運動により作られる「健やかな体」を身に付け、自立した豊かな人生を自らの力で切り拓いています。
- 学校施設が適切に管理され、安全・安心・快適に学ぶことができる環境が整っています。
- 地域の理解と協力を得ながら、小中一貫教育の推進、効果的な学校評価、通学路の安全確保などが行われています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市では、教育環境が整っている	【Well-being】指標 教育環境に対する市民の満足度を示す	3.53	R5	3.70	3.80
「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」とする小中学生の割合	児童生徒の学習への取組状況を示す	78.7%	R4	79.5%	80.0%
「運動やスポーツをすることは好きである」とする小中学生の割合	児童生徒の運動意欲の高まり状況を示す	57.1%	R4	59.7%	61.7%
学校には教育活動に適した施設・設備が整っていると感じる保護者の割合	学校施設整備への保護者の評価を示す	90.8%	R5	91.0%	91.0%

【行政】担当課：学校教育課・教育総務課・市立学校給食センター

施策の方向性

- 知識・技能の習得のみならず、思考力・判断力・表現力などの人間力を育む教育を推進し、子どもたちが主体的に学習に取り組む教育の充実を図ります。
- 小中学校の教職員が互いに連携し、学習指導の継続性や生活指導の一貫性に努め、小中一貫教育を推進します。
- ふるさと教育を推進し、地域と連携・協働し、ともに生きていく子どもたちを育成します。
- 計画に基づく着実な施設整備を進めるとともに、ICT の活用やデジタル化など時代にあった環境整備を図ります。
- 安全・安心な学校給食を提供するとともに、食に関する知識や意識を深め、日常生活で適切な食習慣を実践できるよう食育を推進します。
- 一人一人の教育的ニーズを把握し、個々の能力を伸長する支援・指導体制の一層の充実を図ります。
- ニーズに適応した教育相談体制を構築するとともに、教育支援センターの効果的な運営を図り、学校へ行きづらい児童生徒に寄り添った支援を行います。
- 就学を円滑に進めるため、幼・保・小の途切れのない支援を継続していきます。

重点事業

- 主体的に学習に取り組む教育の充実
- 一人一人のニーズに即した指導体制の整備
- 安全・安心で時代に即した学校施設の整備
- いじめ・不登校の未然防止対策の推進と多様な学びの場の確保

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市教育大綱
- 南アルプス市教育振興プラン
- 南アルプス市教育施設長寿命化基本計画
- 南アルプス市こども計画

【市民】

- 児童・生徒は、自ら積極的に「主体的・対話的で深い学び」に取り組みます。
- 市民は、学校教育以外の場面で子どもたちと関わり、心身の育成をサポートします。
- 市民がもつ様々な知識やスキルを活用し、多様な学びの機会を提供します。

【事業者】

- 学校教育と連携し、事業者が持つ専門的な知識やスキルを活用し、多様な学びを提供します。



施策 3 1 : 健全な財政の維持



現状と課題

- 歳入では、企業立地施策や移住定住施策、子育て支援施策の推進により、人口・企業数の増加による安定的な税収確保が見込まれます。一方で、合併特例期間が終了し特例措置がなくなったことから、普通交付税の減少による歳入減が見込まれます。
- 歳出では、高齢化に伴う社会保障関係費の増加、物価高騰の影響への対応、公共施設・インフラの老朽化に伴う修繕や更新費用の増大が課題となります。
- 口座振替利用率の現状維持と電子納付等の納税しやすい環境を周知し、納期内納付を推進することが必要となります。
- 適正な滞納処分の執行による滞納額の減少を目指していますが、納税折衝が長期にわたる場合もあります。
- ふるさと納税は、全国的な寄附者の奪い合いにより歳入が大きく変動し、見通しが難しい状態になっています。

理想とするまちの姿

- 積極的な財源確保と行財政改革の推進により、自主財源の確保による安定的な歳入確保及び歳出構造の見直しによる歳出抑制が図られ、健全財政が維持されています。
- ふるさと納税など税収以外の財源を確保することにより安定的な行財政運営が行われています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市では、予算が適切に使われている	【Well-being】指標 市の予算執行に対する市民の満足度を示す	3.06	R5	3.20	3.30
実質公債費比率	財政の健全性を示す	3.8	R4	3.1	1.8
将来負担比率	将来の財政状況を示す	—	—	31.9	62.9
市税徴収率	市税の徴収状況を示す	98.47	R5	98.75	99.0

【行政】担当課：財政課・ふるさと振興課・税務課・納税課・政策推進課

施策の方向性

- 国等の補助などの活用や、自主財源である税の確保、国の動向を踏まえつつ、ふるさと納税寄附金制度・地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）の一層の活用等により、積極的な財源確保に向けた取組を行います。
- 相続登記の義務化を周知するとともに、適正な課税に努めます。
- 公共施設再配置等の行財政改革に取り組みます。
- 口座振替の推進と、QRコードによるスマートフォン決済アプリ等の電子納付を推進します。
- 滞納処分を実施し、不動産公売等により滞納額の減少に取り組みます。

重点事業

- 歳入財源の確保と歳出抑制による健全な財政運営の維持
- 義務化に伴う相続登記の周知
- 口座振替や電子納付、納期内納付の推進
- 適正かつ迅速な滞納処分の執行
- ふるさと納税・企業版ふるさと納税の促進

関連する分野別個別計画

- 中期財政収支見通し
- 南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略

【市民】

- 市財政状況への理解を深めます。
- 納税により行政活動に参加します。
- 市外への本市のPRやふるさと納税の働きかけを行います。

【事業者】

- 納税により行政活動に参加します。
- 公民連携により行政活動に参画します。
- ふるさと納税における競争力のある新規返礼品を開発します。



施策 3 2 : 時代に即した自治体経営



現状と課題

- 行政評価を実施することにより、事業の改善及び見直しを行っています。予算編成への反映など更なる評価結果の活用を図るとともに、職員のマネジメントへの意識をより一層高めていく必要があります。
- 今後、公共施設の維持管理経費や、指定管理料などの増加が見込まれています。一方で、予算規模の縮小も見込まれているため、市民ニーズを踏まえた公共施設の適正配置を推進していくことが求められます。
- 市民のマイナンバーカード保有者が市人口の7割を超える状況の中、行政サービスにおける利活用が進んでいないのが現状です。
- 南アルプス IC 周辺エリアは、先行する fumotto 南アルプスの開業により開発の機運が高まっており、「まちの玄関口」として都市的土地利用への転換が期待されています。

理想とするまちの姿

- 行政改革の推進により健全財政を維持し、時代にあった行政サービスが提供されています。
- 公共施設の集約・統廃合を含めた公共施設の適正な配置を推進し、多様化する市民ニーズに合わせた行政サービスが維持されています。
- デジタル化により業務効率化を図り、人的資源の創出と再分配により、市民サービスの更なる向上につながっています。
- 南アルプス IC 周辺の活性化により、さらなる魅力と活力が創出され持続可能なまちづくりが実現しています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
南アルプス市では、予算が適切に使われている	【Well-being】指標 市の予算執行に対する市民の満足度を示す	3.06	R5	3.20	3.30
南アルプス市では、行政サービスのデジタル化が進んでいる	【Well-being】指標 行政サービスのデジタル化に対する市民の満足度を示す	3.10	R5	3.20	3.30
行政サービスが効率化されていると回答した市民の割合	市の業務の効率性に対する市民の評価を示す	41.7%	R5	46.0%	50.0%
市役所の窓口について利用しやすいと回答した市民の割合	市の窓口の利便性に対する市民の評価を示す。	79.3%	R5	81.0%	81.0%

【行政】担当課：政策推進課・IC新産業拠点整備室・管財課・戸籍市民課

施策の方向性

- 行政改革の必要性や適正な方法を理解し、職員一人ひとりが事業のあり方に課題意識を持ち、改革改善に取り組みます。
- 公共施設等総合管理計画などに基づき、公共施設の適正な配置や管理を推進します。
- デジタル化により、情報のデジタル化から業務プロセスの最適化、さらには行政サービスにおける新たな価値創造へと段階的に推進します。
- マイナンバーカードを活用した行政手続きやサービスによる市民の利便性向上とともに、窓口業務の効率化を図ります。
- 南アルプス IC 周辺の活性化と市街地との連携を図ることにより本市のまちづくりに好循環をもたらす開発を推進します。

重点事業

- 適正な行政評価の推進
- 自治体DXの推進
- 公共施設の適正な配置や管理、長寿命化の推進
- マイナンバーカードの活用による市民サービスの向上
- 南アルプス IC 周辺の開発推進

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市行政改革大綱
- 南アルプス市行政経営方針
- 行政評価実施方針
- 南アルプス市 DX 推進計画
- 南アルプス市公共施設等総合管理計画
- 南アルプス市 IC 周辺高度活用推進計画

【市民】

- 社会環境の変化に対応した行政サービスや、公共施設の適正配置の必要性について理解を深めます。行政の効率化や改善点について意見を伝えます。
- 持続可能なまちづくりに向けた新たな土地利用に行政と協働して取り組み、用地提供や法令協議に協力します。

【事業者】

- 事業者が有する知識や技術、人材などの資源を提供します。
- オンラインによる行政手続きを積極的に活用します。
- 事業者間の連携により、地域の価値の向上や雇用を創出します。



施策 3 3 : 職員資質の向上



現状と課題

- 生産年齢人口の減少、働き手の価値観の多様化、デジタル社会の進展等により社会情勢が大きく変化する中、専門人材の育成・確保の重要性が高まっていますが、必要な人材の確保が難しい状況にあります。
- 市職員として求められる能力を発揮している職員の割合は、8割を超え増加傾向にあります。
- 職員の能力向上を図るためには定期的な職員研修が必要ですが、事務量の増加に伴い研修時間の確保が難しい状況もあるため、研修に参加できる体制や環境づくりが必要です。

理想とするまちの姿

- 複雑化・多様化する行政課題や市民ニーズに対応できる職員が確保されています。
- 職員一人ひとりが能力を最大限発揮し、適正な職員数で最大の効果が得られる組織体制が構築されています。

まちづくり指標

指標名	指標の説明	現況値		目標値	
		値	年度	R11	R16
暮らしている地域の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	【Well-being】指標 行政の取組に対する市民の満足度を示す	3.22	R5	3.40	3.50
南アルプス市の職員は信頼できる	【Well-being】指標 職員の業務に対する市民の満足度を示す	3.38	R5	3.50	3.60
南アルプス市の職員として求められる能力を発揮している職員の割合	市職員の能力発揮状況を示す	89.0%	R5	89.3%	89.6%
南アルプス市の職員としての資質・能力の向上に取り組んでいる職員の割合	市職員の資質・能力の向上状況を示す	89.9%	R5	92.5%	93.8%

【行政】担当課：人事課

施策の方向性

- 職員採用試験方法を工夫し、専門人材の確保に努めるとともに、国の制度等を活用した外部人材の導入可能性を検討します。
- 階層毎の役割及び専門性に合わせた研修を実施することにより、時代のニーズに対応できる職員を育成します。
- 人事評価制度を通じて、職員一人ひとりの育成を図り、組織の活性化を目指します。
- 人事評価を昇任等や処遇に適切に反映させ、職員の意欲や向上心を高めていきます。
- 出産や子育て、介護など職員のライフステージに合わせた働きやすい職場環境を整備していきます。

重点事業

- 職員研修の充実
- 多様な試験方法の検討・導入
- 職場環境の整備

関連する分野別個別計画

- 南アルプス市定員適正化計画
- 南アルプス市人材育成基本方針
- 南アルプス市職員研修計画

【市民】

- 公正公平な視点から市の組織体制や職員に対する意見を伝えます。

【事業者】

- 民間企業の持つ情報や人材の提供に協力します。